

学校法人天理大学
平成20年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

【天理大学】

平成20年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	80	320	306
	人間関係学科	80	320	338
	計	160	640	644
文学部	国文学国語学科	40	160	179
	歴史文化学科	50	200	218
	計	90	360	397
国際文化学部	アジア学科	150	600	614
	ヨーロッパ・アメリカ学科	200	800	744
	日本学科	募集停止	0	0
	朝鮮学科	募集停止	0	2
	中国学科	募集停止	0	1
	タイ学科	募集停止	0	0
	インドネシア学科	募集停止	0	0
	英米学科	募集停止	0	0
	ドイツ学科	募集停止	0	1
	フランス学科	募集停止	0	2
	ロシア学科	募集停止	0	1
	イスパニア学科	募集停止	0	1
	ブラジル学科	募集停止	0	0
計	350	1400	1366	
体育学部	体育学科	170	680	841
総合計		770	3080	3248

【天理大学大学院】

平成20年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	20

【天理高等学校】

平成20年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	收容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1560	1297
定時制課程（第二部）	普通科	108	432	417
	介護福祉科	36	144	104
	計	144	576	521
総 合 計		664	2136	1818

※募集人員は440

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成20年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	收容定員	学生数
天理中学校		200	600	588
天理小学校		※ 125	750	524
天理幼稚園		100	200	107

※募集人員は若干名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 6, 305名

(2) 役員・教職員の人数

平成20年5月1日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	16			60	23	99
天理大学		158	211	74	42	485
天理図書館				41	15	56
おやさと研究所		6		4	4	14
天理参考館				32	0	32
天理高等学校(第一部)		77	9	34	90	210
天理高等学校(第二部)		39	5	27	52	123
天理中学校		34	4	6	16	60
天理小学校		26		5	1	32
天理幼稚園		6		4	1	11
合 計	16	346	229	287	244	1122

2. 事業の概要

現在の世界は、従来の右肩上がりの繁栄が際限なく続くという幻想に基づく世界観—自然からの収奪を自明の権利のごとくに是認する人間中心主義—の限界が明白になっております。このような状況の中で、^{おやがみてんりおうのみこと}親神天理王命によって生かされ生きるお互いであることを認識し、その世界究極の教えに基づく世界観を広く世界に提示していく人材、人間創造の目的たる「陽気ぐらし世界」の建設に貢献する高い志を持つ人材の輩出を目指す本学の存在意義がますます増しております。

特に平成20年度は、天理中学校と天理高等学校が創立百周年を迎えた節目の年でもあり、改めて建学の精神に基づく経営・教学のあり方を提示して、教職員の意識の高揚を図りました。その具体的な動きとして、9月21日に天理中学校・天理高等学校創立百周年記念式典を執り行い、在校生、教職員、在校生保護者、卒業生、元教職員が一堂に会して、自校のあるべき姿を再確認し、次の百年への第一歩を一手一つに踏み出すことを誓い合いました。

さらに記念事業として、天理高等学校総合体育館（柔道場、剣道場、トレーニングルーム併設）の新築、天理中学校の新正門の設置ならびに周辺の整備工事を行いました。また、天理中学校、天理高等学校第一部、天理高等学校第二部の「百年史」三分冊を編集・発行いたしました。記念事業の遂行にあたり、募金をお願いいたしましたところ、卒業生ならびに関係各位より総額 225,776,347 円のご芳志を頂きました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

各施設の教職員を対象にした信条教育講習会は、天理教校長の松田元雄氏を講師に迎えて開催し、教祖のひながたに照らしての信条教育の実践について研修しました。さらには、人権教育推進研修会、セクシャル・ハラスメント相談窓口担当者研修会、施設訪問研修、新任者研修会等を開催して、教職員の資質向上に資しました。また、管理職を対象に危機管理講習会を開催し、事例をもとにした学校対応のあり方を研修しました。

施設・設備面としては、天理大学白川グラウンド人工芝整備・更衣室棟新築、天理大学野球場更衣棟新築、天理大学平等坊グラウンド部室棟・便所棟新築、天理大学研究棟東側駐車場舗装、天理大学 PC 教室 CALL システム導入、天理図書館開架閲覧室整備、天理図書館所蔵国宝「類聚名義抄」保存修理、天理高等学校第2別館改造、天理高等学校ホッケー場整備、天理高等学校テニス場新設、天理高等学校高校卓球場整備、天理高等学校ダンス練習場整備、天理高等学校女子寮東寮移転及びみのり寮開設、天理高等学校男子寮北寮エアコン取り付け、天理中学校 PC 教室更新、等を施工しました。

また、学校運営上での動きとしては、天理大学自己点検評価報告書を財団法人大学基準協会に提出し、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する」との認証評価を得ました。さらに、昨年立ち上げた天理大学改革実施委員会において、建学の精神の徹底、宗教学科及び体育学部の入学定員の調整、国際文化学部の学部・学科構成について審議を進めて、文部科学省に提出する改組案を作成しました。

管内のスポーツ強化の動きについては、本学重点スポーツのOBと管内学校長等による天理スポーツ強化推進懇談会を毎月開催、管内各学校の縦横の連絡を密にして競技力の向

上を目指しました。また、オリンピック金メダリストの北島康介選手のコーチである平井伯昌氏と、立命館大学総合理工学研究機構副機構長の伊坂忠夫教授を講師に迎えての指導者講習会を開催し、200余名の管内スポーツ関係者に、最先端のコーチングについての情報等を提供しました。

建学の精神を時代に対応して具現化すべく、様々な施策を講じてまいりましたが、以下平成20年度の各学校の主な事業を報告いたします。

【天理大学】

＜大学改革・中長期計画＞

平成19年10月に設置しました大学改革実施委員会では、平成21年3月までに34回の委員会を開催し、国際文化学部の改組を中心とした天理大学改革案をまとめました。改革案では、国際文化学部を「国際学部」と学部名称を変更することになっています。国際学部では、世界のグローバル化が一段と進む現代社会の趨勢にあって、ローカリズムの重要性を再認識し、グローバル（グローバルに考え、ローカルに行動する）な見地に立って、現代世界が直面するさまざまな課題を、地球的な視野から理解し判断する能力を養い、建学の精神から発する他者への献身の態度をもって国際社会へ積極的に参加する気概と知識を身につけた学生の養成を目指します。国際学部は、国際人に必須の高度な語学力の習得に重点を置く「外国語学科」（入学定員170名）と、専修語を習得しながら、自ら参加し行動する実践教育を通して、広域地域における異文化共存についての理解に重点を置く「地域文化学科」（入学定員180名）の2学科を設置することになりました。その外国語学科には英米語、中国語、韓国・朝鮮語、日本語の4専攻を、地域文化学科にはアジア・オセアニア、ヨーロッパ・アフリカ、アメリカスの3研究コースを置く予定です。また、人間学部宗教学科の入学定員を30名減の50名とし収容定員200名に、体育学部の入学定員を30名増の200名とし収容定員800名にします。これらの改革は平成22年4月実施を目指しており、平成21年4月に文部科学省へ届け出を行うことになっています。

本学は平成20年度に（財）大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受け、平成21年3月12日付で同協会の定める「大学基準に適合している」との認定を受けました。認定期間は2009（平成21）年4月から2016（平成28）年3月までの7年間になります。

F D関係では、昨年に引き続き、年2回学生による授業評価アンケートを実施しました。また、例年春学期には学外から講師を招きF D研修会を実施していますが、平成20年度は6月に「大学教育の質保証とG P A」をテーマに、9号棟で研修会を開催しました。さらに秋学期には、過去2年間は各学部有志教員により「試験的に」実施していた公開授業を、学部長推薦の教員により公開授業として実施することとし、人間・文・国際文化の各学部から推薦された教員が、10～12月にかけて3回に分けて実施しました。また平成20年度から、新たに発足した「関西地区F D連絡協議会」に加盟したことにより、先進的な取り組みに関する情報収集が容易となりました。

＜教育・研究＞

「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」と「社会福祉に関する科目を

定める省令」の施行に基づき、人間学部人間関係学科社会福祉専攻に新たな指定科目を設置して、カリキュラムの改正を実施しました。

「教育職員免許法」の改正に伴い、平成 21 年度より教員免許更新制度が導入されることになりました。そこで平成 20 年度は奈良教育大学が中心となり、教員免許更新講習試行プログラムが実施され、本学はその協力校として教員免許更新講習（予備講習）を開催しました。

「大学設置基準」の改正により、成績評価基準の明示をより厳密に行うことが義務化されたことに伴い、成績評価基準と成績評価方法をより明確にするため、シラバスに明記することになりました。

奈良県内大学間単位互換協定に基づき、平成 20 年度より新たに奈良県立医科大学と奈良女子大学の 2 大学が加盟し計 8 大学となり、特別聴講学生の受入および派遣が拡大されました。

国際文化学部の国際学部への改組に伴い、全学部のカリキュラムの見直しを行い、新カリキュラム案を作成しました。

<学生支援>

北京オリンピックならびにパラリンピック日本代表役員、選手の本学関係者（オリンピック・ホッケー：役員 5 名、選手 9 名。オリンピック・柔道：役員 2 名。パラリンピック・アーチェリー：1 名）の壮行式を 7 月 9 日に実施しました。

教職員・学生が信仰を培う場として、第 1 回信仰フォーラム講演会を 12 月 10 日に 9 号棟で開催しました。講演会は、聖心女子大学名誉教授の松本 滋氏に「信仰と学問の間で」のテーマで講演頂き、230 名の教職員・学生が聴講しました。

大学生の大麻所持による逮捕や不法入国外国人による薬物売買などが社会問題になっていることから、学生がこのような問題に巻き込まれないようにするため、12 月 16 日に薬物乱用防止講習会を実施しました。

学生の悩み・相談について、全学的に組織的支援を行うため学生相談委員会（平成 21 年 1 月 21 日施行）を新たに設置しました。

<国際交流>

学術交流協定では、23 校目となる協定校として、ドイツのケルン大学と 8 月 5 日に学術交流協定を結びました。また、2 月 18 日には米国のカリフォルニア州立大学ロングビーチ校と学術交流協定を締結し、24 校目の協定を結びました。学生の交換では、交流協定校からは 66 名の短期留学生を受け入れ、本学からは 40 名の学生を派遣しました。メキシコの協定校プエブラ栄誉州立自治大学の体育学部では、9 月 24 日から 26 日にかけて、第 2 回国際体育大会が開催され、本学から湯浅 晃体育学部長、田中千秋空手道部監督が渡墨し、基調講演を行いました。

留学生に日本文化を理解してもらうために、平成 19 年度から実施しているホームステイ・ホームビジット制度を本年度も実施し、23 名の留学生に対し、17 件の受け入れがありました。

第 22 回夏期日本語講座を 8 月 6 日から 8 月 20 日まで開催し、中国文化大学の学生 8 名を受け入れました。講座では、日本語の授業、茶道、華道、着物の着付けなど日本文化も体験できる内容とし、中国語コースの学生らがチューターとしてサポートしました。

ポルトガルのコインブラ大学の学生らを中心とするコインブラ吹奏楽団が本学との学術交流協定 5 周年を記念して、10 月 9 日に軽音楽部とのジョイントリサイタルを天理市民会館で行い、約 500 名の聴衆が会場を埋め、合同演奏などに聞き入りました。

地域文化研究センターでは、「国際参加プロジェクト」として、第 9 回を 7 月 27 日から 8 月 7 日までの 12 日間、インドネシアのニアス島などで行い、学生・教員ら 25 名が参加し、ドッジボールと音楽指導に当たりました。また、第 10 回の活動は 2 月 21 日から 3 月 4 日までの 12 日間、フィリピンのサンタローサ市を中心に行い、学生・教員ら 11 名が参加し、ホームステイをしながら、小学校でのリコーダー指導、英語による日本昔話の紙芝居、フィリピンの大学生との交流会などを行いました。

<入試・広報>

オープンキャンパスを 3 回（7 月<全学部>、8 月<全学部>、9 月<人間・文・国際文化学部>）実施しました。また、大学祭期間中には入試部による入試相談会を開催しました。その他、入試説明会、高校訪問等の入試広報活動をさらに強化しています。

しかし大学全入時代の到来に伴い、入学志願者の状況はますます厳しくなっており、受験機会の拡大を図る上から、平成 22 年度入学者選抜要項について、国際文化学部の改組にあわせ抜本的な見直しを行い、新規選抜制度の導入や選考方法の多様化など大幅に改めました。

広報活動に関しては、より学生に身近な広報誌を目指し、一昨年新聞形態から A 4 冊子形態に変更した「はばたき」をますます充実、学内外へ広く浸透させ、定着化を図りました。また、メディアへの教員の露出頻度を増やし、本学の認知度を高める目的で「教員紹介リスト（冊子と CD-ROM）」を作成し、県内メディア各社へ配布しました。

また、平成 22 年度から国際文化学部を国際学部へと改組するにあたり、改組広報用のパンフレットを作成しました。

さらに、新聞やテレビ等マスメディアとの連携を強め、企画広告、オリンピック出場者記者会見、プレスリリースなどを通じ、学術情報や本学の取り組み等に関する種々の広報活動の充実に取り組みました。

<就職支援>

今日、就職支援は、従来のような「出口指導」としての就職支援にとどまらず、入学したての 1 年次生からを対象とするキャリア形成支援へと変遷しています。そこで、本学においても、1 年次生のうちから進路に対する意識を高められるよう、体系的なキャリア形成支援の充実に向けた取り組みを行いました。

まず、入学時に新入生全員に「キャリアデザインシート」（総合適性検査）を実施し自己の適性を把握させ、在学中の明確な目標を設定させる一助としています。そして、教学においても授業としての教育サービスを提供し、実業界で活躍する卒業生を講師に迎える「キ

「キャリアデザインー人生と職業ー」の科目を通して、人生観・職業観を育成しています。さらに、2、3年次生には、「奈良県インターンシップ制度」に参加させ、大学在学中に就業体験することにより、職業に対する意識を高めています。

この他にも、1、2年次生対象の進路ガイダンスやセミナーを行い、3年次生に対しては、6月中旬から全12回の進路ガイダンスを実施し、自己分析・企業研究・面接対策など、就職活動に必要なノウハウをすべて習得できるよう支援しました。また、毎年2月には、企業の人事・採用担当者を大学に招き、学内企業説明会を開催し、本年度は2日間で参加企業は約80社、参加学生は約470名と盛会裏に終えることができました。

さらに、多様化した学生に対して、体系的な支援とともに個別的に丁寧に支援する取り組みも行っています。その一環として平成16年から「キャリア支援ルーム」を開設し、CDAの資格を持つキャリアアドバイザー（就職支援のプロの資格をもつ専門のアドバイザー）を学外から迎えて就職相談を実施しています。本年度はキャリアアドバイザー4名に進路部員を加え週5日体制で、個々の学生の要望に応じた就職相談を実施しました。

また、教員との連携を深めるために、新たに「就職情報交換会」を設け、6月と10月の年2回開催し、3、4年次生の担任教員と交流をもちました。この他、就職支援・資格取得講座も充実させ、毎年500名近い学生が受講しています。

<施設・設備>

語学教育の充実に向けて、老朽化した4号棟地下1階のLL教室を、1月の普通授業終了後からCALL教室に改修し、コンピュータによる語学教育システムを導入しました。これと併せて3月末に教員及び学生アシスタント対象の操作説明会を行いました。

図書室関係では、平成20年度から新規図書システム（Neo CILIUS）が本格稼働し、昨年度に続き1987年度以前のカード時代の図書を、OPAC検索の対象となるよう電子データ化の作業を進めています。学内で発行された学術・研究成果の電子データベース化（学術情報リポジトリ）については、平成21年3月下旬に、蓄積されたデータの一部を試験的に学内に公開しています。

白川グラウンドのラグビー場とサッカー場を人工芝に整備しました。また、研究棟東側の教職員用駐車場をアスファルト舗装し整備しました。

<地域貢献>

教育研究の内容と成果を、「公開講座」を始めとする様々な講座を通し、広く一般市民に公開しています。今年も天理市教育委員会や生駒市教育委員会、奈良新聞社等との共催で6シリーズ計19回開催しました。その他、学外からの要請に応じて、本学教員が講座、講演会、シンポジウムなど数多く参加しています。

天理市商工会から地域活性化の一環として、学生による天理本通商店街の空き店舗利用の協力要請があり、本学としても地域連携を推進する上で協力することになり、4月12日「てんだりーcolors」店をオープンさせました。オープンセレモニーでは、本学ALSジャズオーケストラの演奏ならびに書道部による書道展を実施しました。以降、歴史研究会による「天理周辺の遺跡について」の他、写真部や美術部による展示発表を行いました。ま

た、3月29日には本学と天理市商工会主催による「てんだりーcolors イベント 年中夢中！ てんりストリート 街中探検-食・音・学-」を開催しました。

本学学生、教職員、天理市商工会、天理本通商店街関係者および一般ボランティアなど多数の協力により、天理本通を中心に多種にわたる催しなどを行いました。本学関係の主な催しは、世界のスープ・ストリート（留学生・日本人学生）、内山永久寺ジオラマ展示（歴史研究会）、雅楽（雅楽部）、ジャズ演奏（軽音楽部）、アカペラのコーラス（音楽部）、石上神宮・西山古墳での説明（歴史研究会）、天理周辺の歴史についての公開講座（本学教員）などで学生・教職員約140名が参加しました。

<その他>

ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

【天理図書館】

貴重な図書を蒐集・整理し、資料保存と共に利用・公開にも寄与しています。整理では図書整理後は何時でもインターネットにて図書検索ができるようにしています。資料保存では国宝『類聚名義抄』の修復、文化財等の修復整備を行いました。利用では東閲覧室を開架化し、近年に蒐集した天理教文献・一般図書を排架し、利用者には利便性と閲覧向上をめざし、出納業務などは正面カウンターを一箇所に集中するように3月23日から末日まで休館・閉館して準備し、それと共に常設展示および展覧会を行いました。

展覧会では特別展「源氏物語―千年の時をかさねて―」（4月12日から30日まで）、天理ギャラリー134回展「中国の絵入本」（5月18日から6月15日まで）、開館78周年記念展「うたのほん」（10月19日から11月9日まで）を開催し、それに伴う図録の出版を行いました。また館報「ビブリア129号」（5月刊）、「ビブリア130号」（10月刊）を出版しました。

また、海外図書館の日本古典籍整理担当者19名に対して、3年のステップアップ方式による「天理古典籍ワークショップ（2年目）」（6月16日から20日まで）を開催し、和（漢）古書資料の書誌情報を作成するための必要な知識・技術等とスキルの修得・涵養を行いました。

【おやさと研究所】

平成20年度は、天理教の一派独立百周年の意義ある年と位置づけ、創立50周年の記念として始めた公開教学講座は、「みかぐらうたの世界を味わう」を統一テーマに、4月～12月の全9回、天理教道友社ホールにて開催しました。毎回百名を超える受講者があり、その要旨は、『グローバル天理』、天理教の機関紙『天理時報』『みちのとも』に掲載され、多くの関心を集めました。

10月26、27日には、国々所々で現代の諸問題に対応できる人材養成を目的とした「教学と現代V」を「一派独立百周年記念フォーラム」として全6講の講義とパネルディスカ

ッションにて行いました。また、26日の講義後、特別企画として一派独立運動を機に創作奉納された「神の御國」の復元演奏を行いました。「教学と現代」は、毎回、参加者から意義ある催しであるとの大方の賛同を得ており、継続的な開催の要請があります。

伝道史料室として継続的に行っている第5回目の伝道フォーラムは、「アフリカにおける天理教の活動」をテーマとして、3月25日、本学第一会議室を会場に開催しました。

また、天理スポーツギャラリー展の第8回目として、これまでギャラリー展で取り上げられなかった種目を「身体表現：栄光の軌跡・未来への飛躍」と題して、1月19日～28日の10日間、ギャラリーおやさとにて展覧会を開催しました。なお、会期中の25日には、ふるさと会館を会場に関連シンポジウム「天理スポーツ殿堂設立に向けて」を開催しました。全8回に及んだギャラリー展の掉尾を飾り、井上所長の基調講演に続いて、実行委員として勤めた6人のパネラーが、「天理スポーツ殿堂」と称すべき施設の設立を熱っぽく語りました。

定例の研究報告会は、205回～214回の10回開催、第52回目の伝道研究会は、3月28日「アメリカスの日系宗教（2）」と題し、また宗教研究会は、「開祖論・教祖論の構築・脱構築」をテーマとして第14回目を11月1日、第15回目を1月31日に行いました。

出版物としては、定期の月刊誌「グローバル天理」を初め、年刊の「Tenri Journal of Religion」「おやさと研究所年報」、「伝道参考シリーズ」の18巻目となる『天理教教理の伝播とその様態』を、「グローバル新書」は、第9巻『中国音楽の泉』を刊行しました。なお、月刊の「グローバル天理」は、昨年4月号で刊行以来100号となり、現在も続いています。

天理教の立教171年、一派独立百周年の年を意義あるものにすべく、研究所員一丸となって努力を傾けることができました。

【天理参考館】

企画展として『古代ギリシア美術への誘い』（4月～6月）、『幕末明治の銅版画－上方のモノトーン風景－』（7月～9月）、『20世紀ブラジル－アマゾン先住民の暮らしと日系人の歩み－』（10月～1月）、新春展として『丑－古今東西 ウシづくし』（1月～2月）、及びスポット展『五月人形飾り』『御殿飾り雛人形』などを開催しました。ほかにトーク・サンコーカン（公開講演会／10回）、ワークショップ『バリガムラン』『織物教室』ほか、天理ギャラリー展（2回）を開催しました。また新しい企画として、3月にミュージアムコンサート『参考館メロディュー』（天理教音楽研究会共催）を開催しました。

通常業務としては考古美術・生活文化資料の収蔵品及び研究用図書の実態を図り、資料の調査研究（海外出張を含む）、整理、修復・保存処理を行いました。出版物として天理参考館報、企画展図録を刊行しました。広報としてはホームページ、情報誌、マスコミ、ポスター等のほか、『天理参考館ニュースレター』を発行するなど、館活動の情報の発信を継続して行い、広報活動の実態を図りました。その他資料熟覧、資料貸出、資料写真掲載・映像取材などの協力、及び博物館実習を実施しました。

来館者に喜んで頂けるよう、親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化等に取り組み、

また、管内各学校、天理市内の小・中学校への当施設利用の促進の働きかけを継続しつつ、新たに全国の学校施設に拡大して働きかけを行いました。

平成 22 年に迎える創立 80 周年に向けて、記念事業を推進する委員会を立ち上げ、年史、特別展について検討を継続しました。

【天理高等学校第一部（全日制）】

学校創立百周年に向けて、月次祭まなびの充実を図り、前年から続けてきたねりあいでは、校訓の「神一条の精神」「ひのきしんの態度」「一手一つの和」の三信条を通して、本校のあるべき姿を確認しました。そして、9月21日の百周年記念式典前日には、学寮である北寮と東寮の自治会が中心となり、十二下りのてをどり総立ちを実施するなど、教職員・生徒が一体となって百周年を迎えることができました。

生徒への進路指導では、例年通り関係の先生方を招き、大学・短大・専門学校の進路説明会を実施し、加えて1年生に対する進路への意識付け（職業別進路講演会・小論文ガイダンス）にも努力しました。

進学指導では、天理大学への進学指導、塾との連携による課外活動、夏季・冬季の講習や合宿勉強会、土日を利用してのセンター試験対策を実施し、天理大学合格者 135 名をはじめ、国公立大学に合格者を出しました。特に、第一類から4名の国立大学合格者を出したことは、地道な学習指導の成果の表れではないかと考えています。

また、授業の充実、生徒指導・育成の更なる向上を目的とし、奈良県立教育研究所の「研修講座」へ多くの教職員が参加すると共に、外部からの講師を招いての各研修会では、理解を深めるための様々な工夫が図られるなど、研究授業も含めて有為な研鑽の機会を得ました。

施設・設備面では、総合体育館を新設し、充実した環境の中での授業やクラブ活動が展開できました。その体育館において、卒業生・在校生・保護者の方々と共に卒業式を迎えられたことは、念願がかない大きな喜びでありました。

学寮では、北寮食堂に空調を整備し、衛生面・食事面は勿論、自習時間の活用等にも効果を生みました。

クラブ活動では、野球部の2年連続の全国選抜大会出場をはじめ、吹奏楽部が全国吹奏楽コンクールで金賞、全日本吹奏楽大会では初のグランプリ、全国選抜大会ではゴールデン賞と3冠を達成、ホッケー部男子は国民体育大会、チャンピオンズカップ、全国選抜大会で優勝するなど、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮しました。

学校評価においては、一昨年度より実施していた部署別の評価活動に代えて、新たに学校評価・個人評価の評価アンケートを全教職員対象に実施し、反省すべき点あるいは教育力の向上、学校活性化のためのヒントを得ました。今後はアンケートの対象についても検討し、より充実した学校評価にしたいと考えています。

最後に、創立百周年の式典において、天理教真柱の、「育てる立場の者が、ゆるぎない信仰信念を培って、毅然たる態度で次代の道の子供を育てて頂きたい」とのお言葉を承けて、

育てる者の心の置き処を確認しながらいかに進めるかを、これからの目標の一つにしたいと考えます。

【天理高等学校第二部（定時制）】

4月中旬から5月初旬にかけて、できるだけ早く生徒の実態を把握できるように、全学年のクラス担任と生徒の面談の場を設けました。期間中、短縮授業を行い、放課後の時間を使って生徒全員との面談を行いました。

学級経営の充実を目指して、各学年クラスでホームルームの年間指導計画を作成しました。特にロングホームルームにおける学級企画の時間の指導内容を明確にしました。入学から卒業までの長期的展望に立った適切な指導ができるように配慮しました。

個々の生徒の指導をクラス担任や学年だけで抱え込むことなく、状況を把握して学校として迅速に対応できるようにという趣旨で、生徒指導部・ひのきしん生指導部・学寮部・保健部・教務部などのメンバーから構成される学校安全委員会を立ち上げました。

平成21年度から入学する生徒に対する教育課程について、より魅力ある内容にするため検討委員会を中心に検討に入りました。結論として卒業後の進路や適性に合わせて系統的に学習できるように、従来からの選択制を発展させて、3、4年次に類型別選択制を設定しました。2年次の1学期までに十分なオリエンテーションを行い、教養と進学の2類型の内から進路に合わせた類型を選択できるようにして開講する予定です。

介護福祉科においては、介護福祉士の国家試験の結果、第1次筆記試験で100%合格し、第2次試験では合格率93%でした。なお介護福祉科は平成21年度から新入生の募集は停止となり、現在在学している生徒が卒業するまでの存続となりました。

3回目を迎えたオープンスクールは11月25日（火）に実施しました。当日は平日であったため、来校者は昨年より少なく、中学生以上の来校者は約250名でした。学校案内の説明は、学校説明会と個別懇談に分けて実施しました。個別懇談の窓口では、受験を予定している生徒の保護者・学校や教会の関係の方から質問がありました。

10月25日にモンゴル国オロンログ学校の生徒が来校し、国際文化交流行事を本校において開催しました。本校からは、雅楽部と吹奏楽部が歓迎の演奏を行い、オロンログ校からは民族舞踊や歌が披露されました。

職員月次祭まなびは学期に一度ずつ行っており、毎回大勢の職員が参拝し、昨年以上に活況を帯びて、一同打ちそろって陽気につとめました。

学寮懇談会・学寮部による職員研修会は3年目をむかえて、学校と学寮の密接な連携や寮職員の研修の場として天理高等学校第二部の教育現場に定着しています。

【天理中学校】

創立百周年の記念すべき年を意義あらしめるべく、建学の精神の再確認とその実現に向けての具体的な取り組みを種々進めることができました。

開校記念日（4月15日）に奇しくも第500回目を迎えた職員月次祭まなびを、全員おつ

とめ着を着用して、十二下り全てを賑やかに且つ厳粛につとめました。昭和 37 年に月次祭まなびを始めて以来、初めてのことでありました。一同の一手一つと勇み心を親神様に受け取って頂けたのか、この年の諸活動は例年以上の成果を得ることができました。

また、百周年記念事業として新たに設置しました正門と周辺の整備工事により、見違えるような立派なエントランスとなり、6月に完成した昨年度卒業生の記念品である生活目標「朝起き・正直・働き」の石碑と共に、信条教育充実の上には力強いサポートを得ました。特に、登下校の際には校門での一礼が生徒会の呼び掛けで定着し、かつての天中の良き伝統の復活を見ることができました。

行事関係につきましても、百周年記念式典は天理教真柱の臨席を頂き、また、県知事をはじめ多くの来賓を迎えて挙行了たのははじめ、百周年記念と銘打った運動会や音楽会も例年以上の充実した内容で、その冠に相応しい成果を得ました。

さらに、文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」の恩恵に浴して、名古屋フィルハーモニー交響楽団が来校し、素晴らしい演奏を聴かせてくれました。本校の吹奏楽部や弦楽部との合同演奏もあり、誇らしいひとときでもありました。また、東京オリンピック招致活動の一環として、「ふるさと特使」となった本校OG・森本さかえ氏（北京オリンピック女子ホッケー日本代表）の母校訪問が実現し、プロの演出によるイベントを楽しむことができました。以上の2つは予期せぬ追加行事であり、正に百周年の旬に合わせた親神様の守護以外の何ものでもありませんでした。

また、本年度1年生を対象として新たに導入しましたプログラムである「グループワーク」は、天理教教会本部学生担当委員会の全面的な協力を得て、成功裏に終えることができました。本学年の生徒にははじめの報告がなかったのは、他の要因もあったにせよ、ひとつにはこのプログラムの成果でもあったと考えられます。

その他、各行事毎にアンケートを採ることによるP.D.S.は本年も継続され、少しではあっても改善に向けての歩みを進めることができました。学校評価の取り組みとしての自己点検も実施しましたが、その結果から課題の検討をし、改善への取り組みを進めようとしています。

【天理小学校】

各教室と講堂に「朝起き・正直・働き」の校訓を掲げ、様々な機会に校訓の意味を説明し、実践の徹底を図っております。

現在の始業 20 分前の「天小タイム」を実施して3年が経過しました。計算練習・漢字・音読・暗唱などを中心にした基礎・基本の習得を目指していますが、2月に全校で実施した「NRT 教研式標準学力検査」にその成果が出ております。昨年度と比較して、評定の1・2が減り3・4が増加しております。全体の偏差値は58.4で昨年より0.7高く、着実に上昇しています(19年度は57.3)。課題は、中・高位層をいかに伸ばすかにあります。4月に実施された文科省の学力テスト(6年生対象)では、全国1位の秋田県より上位にあります。

研修につきましては、実施計画に基づき「信条」の公開授業をはじめとして、27回の機会を設けました。常に学ぶ姿勢を保つことで、よりよい授業、より適した生活指導を心掛けております。本年度も「実践記録」を致します。

クラブ活動などの、徳分を生かす面について、本年度は特筆すべき点が2つあります。1つは、オーケストラ（弦楽）が、「全国こども音楽コンクール」で1位に相当する「文部科学大臣奨励賞」を受賞したことです。過去には、四重奏での受賞はありますが、30名編成での合奏部門では初めての快挙でした。児童・指導者が一手一つで取り組んだ成果が表れました。また、全国の作文コンクールでも、1位、2位に相当する賞を頂きました。この背景には、教員による読書や日記・作文指導へのたゆまぬ努力があるといえます。この結果についても、たいへん励みになっています。

学級通信は、年間発行回数446号という最多記録のクラスや、3年連続200号突破というクラスもありました。たくさん発行すればよいというわけではありませんが、そのエネルギーには尊いものがあります。もちろん、他の面でも熱心に取り組んでおります。学校通信である「布留からの発信」は、保護者の間でその意義がかなり浸透してきたようです。本年は136号を出しましたが（休日を除いて、ほぼ2日に1回のペース）、62名の方から製本を依頼されました（昨年は13名）。これは、この通信を大切にされていることの表れであります。学校が取り組んでいることを、できる限りリアルタイムで発信し、児童と保護者が、共通の話題を持てるよう今後も発信を続ける所存です。

教職員を対象とした「学校運営自己評価」については、現在の形式で実施してから3年になります。「信条の授業」の改善を進めるなどの成果は出ていますが、個人情報の管理の在り方などについて不十分であるとの認識があります。ややマンネリの傾向がありますので、評価項目の見直しをします。保護者に対する「アンケート」は2回目でしたが、「子どもの悩み」に対する対応を、さらに丁寧にする必要を感じています。「わからない」という回答が目につきますので、今後は評価項目の内容を精査します。

平成23年度から実施される「英語学習」に先だって、3年生から6年生を対象に、ベテランの講師による授業を開始しました。クラス担任も参加し、TT（ティーム・ティーチング）の形態をとりながら教員の研修を重ね、いずれは担任が指導することを目指しています。

【天理幼稚園】

人格形成の基礎を培っていくために、その子の育ちにに応じた援助や環境づくりができるよう、一人ひとりの育ちについて共通理解を深めるなど教師間の連携に努めました。

また特別支援教育の研修会にも積極的に参加し、障害に対する理解や支援のあり方などを学びました。

本年度より、園の教育方針及び活動形態について、年度始めに保護者へ文書で知らせるようにしました。また従来の「幼稚園だより」に加え、月の保育計画を毎月文書で知らせるようにするとともに、毎月の活動や遊びの様子をスナップ写真にとり、掲示して紹介し

ました。保護者からは、子どもに園でのことを聞いてもよく分からないが、園より活動や遊びを知らせてもらうことで、子どもの様子をうかがうことができ、子どもと共通の話題で会話や関わりを持つことができうれしい、という声を聞いております。

保護者OBが申し出により、2年前から年2回の教育講演時に託児ひのきしんをしてくださるようになり、保護者間のネットワークが広がっています。また、保護者同士の交流や親睦を図るクラス単位の茶話会や、バス送迎時の親子ひのきしんなど、保護者の主体的な活動の実施については、園としてもできる限り協力し、園と保護者が互いに理解し合い、連携を深めていけるよう努めました。

学校評価については、保護者対象に「幼稚園運営に関するアンケート」を、教職員対象に「学校評価」を初めて実施しました。保護者にはアンケートの集計結果に分析、考察を加え各位に文書で報告しました。保護者対象のアンケートの集計結果は、全体的に高い評価を頂きましたが、今後の課題を見出し、更なる改善に向けて取り組んでいきます。

施設面では、遊戯室の創立以来の木枠の窓ガラスを園児の安全に配慮し、アルミサッシ枠の強化ガラス窓にとりかえました。

3. 財務の概要

(1) 平成20年度決算の概要

平成20年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

○ 資金収支計算

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,373,784	3,450,498	△ 76,714
手数料収入	90,806	75,177	15,629
寄付金収入	3,350,500	3,390,877	△ 40,377
補助金収入	1,278,550	1,257,913	20,637
資産運用収入	46,230	60,029	△ 13,799
資産売却収入	16,270	16,311	△ 41
雑収入	401,120	412,667	△ 11,547
前受金収入	619,841	638,723	△ 18,882
その他の収入	303,795	389,120	△ 85,325
資金収入調整勘定	△ 978,403	△ 976,467	△ 1,936
前年度繰越支払資金	5,056,207	5,056,219	△ 12
収入の部合計	13,558,700	13,771,067	△ 212,367

●支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	6,742,105	6,779,260	△ 37,155
教育研究経費支出	1,289,250	1,206,959	82,291
管理経費支出	410,570	419,252	△ 8,682
借入金等利息支出	9,035	9,035	0
借入金等返済支出	100,000	100,000	0
施設関係支出	984,580	984,777	△ 197
設備関係支出	268,975	261,093	7,882
資産運用支出	2,295	142	2,153
その他の支出	986,460	987,508	△ 1,048
資金支出調整勘定	△ 1,310,142	△ 1,355,614	45,472
次年度繰越支払資金	4,075,572	4,378,655	△ 303,083
支出の部合計	13,558,700	13,771,067	△ 212,367

収入の部では学生生徒等納付金収入が見込みを上回り7671万円の収入超過となりま

したが、手数料収入は見込みを下回り、予算比では 17.2%の減額となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より 3 2 億 5 千万円、天理中学校・天理高等学校創立 1 0 0 周年記念事業寄付金に 1 億 3 3 4 3 万円、その他の寄付金が 7 4 4 万円あり、予算より 4 0 3 8 万円の収入超過となりました。補助金収入は私立大学経常費補助金が見込みより下回ったこと等から予算より減額となっています。雑収入は科学研究費補助金の間接経費が増えたため収入超過となりました。当年度収入合計は前年度の 8 7 億 9 3 4 0 万円より約 1 億 2 9 9 3 万円減少して 8 6 億 6 3 4 7 万円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では 1 3 7 億 7 1 0 7 万円となりました。

支出の部では人件費支出が職員人件費支出の増により支出超過となりました。退職金支出は予算額通りとなりましたが、前年度より 3 億 7 3 1 万円増額しています。施設設備の整備・改修としての主な支出は、1. 大学白川ラグビー場・サッカー場人工芝構築、2. 大学白川ラグビー場更衣棟新築、3. 大学白川野球場更衣棟新築、4. 大学研究棟東側駐車場舗装、5. 市道改修に伴う大学平等坊グラウンド代替地購入及び造成、6. 大学平等坊グラウンド部室棟・便所棟新築、アーチェリー練習場構築、7. 大学PC教室CALLシステム整備、8. 大学呼気ガス代謝モニターシステム購入、9. 大学柚之内ふるさと寮寮生室改修、10. 図書館開架閲覧室整備、11. 図書館所蔵国宝保存修理、12. 高校総合体育館新築、13. 高校トレーニング機器備品購入、14. 高校第2別館改造、15. 高校卓球場改造、16. 高校テニス場構築、17. 高校一部女子寮(みのり寮)移転に伴う改修及び備品購入、18. 高校一部男子寮北寮食堂エアコン設置、19. 高校北寮便所小便秘器取替、20. 高校農事部トラック購入、21. 中学校正門構築及び校内舗装、22. 中学校コンピュータ教室更新などです。日本私立学校振興・共済事業団からの借入金にかかる返済支出は予算通り 1 億円、同利息分が 9 0 4 万円です。資金支出は合計で 1 3 7 億 7 1 0 7 万円となり、そのうち次年度繰越支払資金は 4 3 億 7 8 6 5 万円となりました。

○ 消費収支計算

(単位：千円)

●消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,373,784	3,450,498	△ 76,714
手数料	90,806	75,177	15,629
寄付金	3,360,260	3,415,086	△ 54,826
補助金	1,278,550	1,257,913	20,637
資産運用収入	46,230	60,029	△ 13,799
資産売却差額	7,756	7,807	△ 51
雑収入	401,120	412,668	△ 11,548
帰属収入合計	8,558,506	8,679,178	△ 120,672
基本金組入額合計	△ 1,001,586	△ 953,736	△ 47,850
消費収入の部合計	7,556,920	7,725,442	△ 168,522

●消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費	6,744,105	6,746,319	△ 2,214
教育研究経費	1,996,980	1,960,866	36,114
管理経費	451,160	460,866	△ 9,706
借入金等利息	9,035	9,035	0
資産処分差額	76,880	83,004	△ 6,124
消費支出の部合計	9,278,160	9,260,090	18,070

当年度消費支出超過額	1,721,240	1,534,648	
前年度繰越消費支出超過額	7,511,165	7,511,165	
基本金取崩額	0	10,280	
翌年度繰越消費支出超過額	9,232,405	9,035,533	

《前記の資金収支と共通の科目があるので、消費収支特有のものについて説明します。》

消費収入の部では、帰属収入合計が予算比 1.4%増の 8 億 7 9 1 8 万円（前年度比では 1.3%（1 億 1 5 9 2 万円）の減）となりました。基本金組入額合計が、予算比 4.8%減の 9 億 5 3 7 4 万円となり、消費収入合計は予算比 2.2%増の 7 7 億 2 5 4 4 万円（前年度比では 0.7%（5 6 4 8 万円）の増）となりました。消費収入特有の現物寄付としては大学後援会等より図書を受贈、天理参考館資料を受贈等があり、寄付金は 3 4 億 1 5 0 9 万円（前年度比では 0.3%（1 0 8 2 万円）の減）となりました。

消費支出の部では、人件費に退職給与引当金繰入額 1 0 億 1 2 5 2 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 3 2 9 4 万円となっています。教育研究経費には 6 億 9 0 3 3 万円、管理経費には 3 2 4 9 万円の減価償却費を含み、消費支出の部合計ではほぼ予算通りの 9 2 億 6 0 0 9 万円（前年度比では 3.0%（2 億 6 9 9 1 万円）の増）となりました。

当年度消費収支差額は 1 5 億 3 4 6 5 万円の消費支出超過額（前年度は 1 3 億 2 1 2 2 万円の消費支出超過額）となり、前年度繰越消費支出超過額を加え基本金取崩額を控除した翌年度繰越消費支出超過額は 9 0 億 3 5 5 3 万円となりました。

○ 貸借対照表

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	28,730,208	28,347,694	382,514
有形固定資産	26,758,168	26,367,656	390,512
その他の固定資産	1,972,040	1,980,038	△ 7,998
流動資産	4,725,940	5,366,169	△ 640,229
資産の部合計	33,456,148	33,713,863	△ 257,715

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,743,175	1,876,116	△ 132,941
流動負債	2,220,185	1,764,048	456,137
負債の部合計	3,963,360	3,640,164	323,196
●基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	37,739,857	36,796,535	943,322
第3号基本金	138,464	138,329	135
第4号基本金	650,000	650,000	0
基本金の部合計	38,528,321	37,584,864	943,457
●消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	△ 9,035,533	△ 7,511,165	△ 1,524,368
消費収支差額の部合計	△ 9,035,533	△ 7,511,165	△ 1,524,368
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	33,456,148	33,713,863	△ 257,715

《貸借対照表は、平成21年3月31日現在の資産、負債、基本金等の状況を前年度末と対比させて表示しています。》

資産の部では有形固定資産が施設設備の充実及び受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却を差し引いて、前年度末から3億9051万円増、その他の固定資産は有価証券等の減により800万円減額しています。流動資産は現金預金の減少等により6億4023万円の減となり、資産の部合計では差引2億5772万円減の334億5615万円となりました。負債の部では借入金、退職給与引当金が減少し、未払金、預り金が増加したので差引3億2320万円増の39億6336万円となっています。基本金の部では9億4346万円の基本金組み入れを行いましたので、総額385億2832万円となりました。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算の翌年度消費支出超過額と同額の90億3553万円の消費支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は294億9279万円となりました。

(2) 経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去5年間の推移を記載します。

(単位：千円)

資金収支計算書					
●収入の部					
科 目	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
学生生徒等納付金収入	3,625,543	3,555,524	3,565,348	3,502,470	3,450,498
手数料収入	128,417	106,173	95,120	81,407	75,177
寄付金収入	3,595,315	3,532,353	3,401,000	3,416,733	3,390,877
補助金収入	1,362,978	1,267,729	1,396,862	1,393,259	1,257,913
資産運用収入	31,229	35,144	42,788	56,214	60,029
資産売却収入	236,466	50	4,240	7,480	16,311
雑収入	474,000	162,821	353,622	335,837	412,667
前受金収入	679,184	675,032	660,607	637,943	638,723
その他の収入	310,650	243,535	139,882	313,255	389,120
資金収入調整勘定	△ 941,702	△ 819,066	△ 983,209	△ 963,517	△ 976,467
前年度繰越支払資金	5,966,781	6,532,203	5,607,168	5,812,883	5,056,219
収入の部合計	15,468,861	15,291,498	14,283,428	14,593,964	13,771,067

●支出の部					
科 目	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
人件費支出	6,600,879	6,267,450	6,878,413	6,545,166	6,779,260
教育研究経費支出	1,025,493	1,277,440	1,226,148	1,152,133	1,206,959
管理経費支出	326,672	355,789	322,067	343,176	419,252
借入金等利息支出	14,583	13,782	12,200	10,618	9,035
借入金等返済支出	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
施設関係支出	568,484	1,182,571	84,025	882,432	984,777
設備関係支出	298,305	313,675	237,696	226,910	261,093
資産運用支出	13,948	16,470	7,197	105	142
その他の支出	1,009,216	1,020,922	865,931	1,263,672	987,508
資金支出調整勘定	△ 1,020,922	△ 863,769	△ 1,263,132	△ 986,467	△ 1,355,614
次年度繰越支払資金	6,532,203	5,607,168	5,812,883	5,056,219	4,378,655
支出の部合計	15,468,861	15,291,498	14,283,428	14,593,964	13,771,067

(単位：千円)

消費収支計算書					
●消費収入の部					
科 目	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
学生生徒等納付金	3,625,543	3,555,524	3,565,348	3,502,470	3,450,498
手数料	128,417	106,173	95,120	81,407	75,177
寄付金	3,938,911	3,623,874	3,410,852	3,425,909	3,415,086
補助金	1,362,978	1,267,729	1,396,862	1,393,259	1,257,913
資産運用収入	31,229	35,144	42,788	56,214	60,029
資産売却差額	0	50	0	0	7,807
雑収入	236,466	162,821	353,622	335,837	412,668
帰属収入合計	9,323,544	8,751,315	8,864,592	8,795,096	8,679,178
基本金組入額合計	△ 748,789	△ 1,499,539	△ 391,998	△ 1,126,131	△ 953,736
消費収入の部合計	8,574,755	7,251,776	8,472,594	7,668,965	7,725,442

●消費支出の部					
科 目	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
人件費	6,559,183	6,186,258	6,729,514	6,664,826	6,746,319
教育研究経費	1,694,764	2,052,310	1,990,639	1,891,658	1,960,866
管理経費	440,310	402,078	367,831	385,682	460,866
借入金等利息	14,583	13,782	12,200	10,618	9,035
資産処分差額	13,160	63,126	19,023	37,399	83,004
消費支出の部合計	8,722,000	8,717,554	9,119,207	8,990,183	9,260,090
当年度消費支出超過額	147,245	1,465,778	646,613	1,321,218	1,534,648
前年度繰越消費支出超過額	3,930,311	4,077,556	5,543,334	6,189,947	7,511,165
基本金取崩額	0	0	0	0	10,280
翌年度繰越消費支出超過額	4,077,556	5,543,334	6,189,947	7,511,165	9,035,533

(単位：千円)

貸借対照表					
●資産の部					
科 目	16年度末	17年度末	18年度末	19年度末	20年度末
固定資産	27,834,277	28,548,473	28,053,888	28,347,694	28,730,208
流動資産	6,778,558	5,755,806	6,129,653	5,366,169	4,725,940
資産の部合計	34,612,835	34,304,279	34,183,541	33,713,863	33,456,148
●負債の部					
固定負債	2,286,547	2,105,355	1,856,456	1,876,116	1,743,175
流動負債	1,836,648	1,675,522	2,058,299	1,764,048	2,220,185
負債の部合計	4,123,195	3,780,877	3,914,755	3,640,164	3,963,360
●基本金の部					
第1号基本金	33,779,173	35,278,635	35,670,500	36,796,535	37,739,857
第3号基本金	138,023	138,101	138,233	138,329	138,464
第4号基本金	650,000	650,000	650,000	650,000	650,000
基本金の部合計	34,567,196	36,066,736	36,458,733	37,584,864	38,528,321
●消費収支差額の部					
翌年度繰越消費支出超過額	△ 4,077,556	△ 5,543,334	△ 6,189,947	△ 7,511,165	△ 9,035,533
消費収支差額の部合計	△ 4,077,556	△ 5,543,334	△ 6,189,947	△ 7,511,165	△ 9,035,533
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	34,612,835	34,304,279	34,183,541	33,713,863	33,456,148

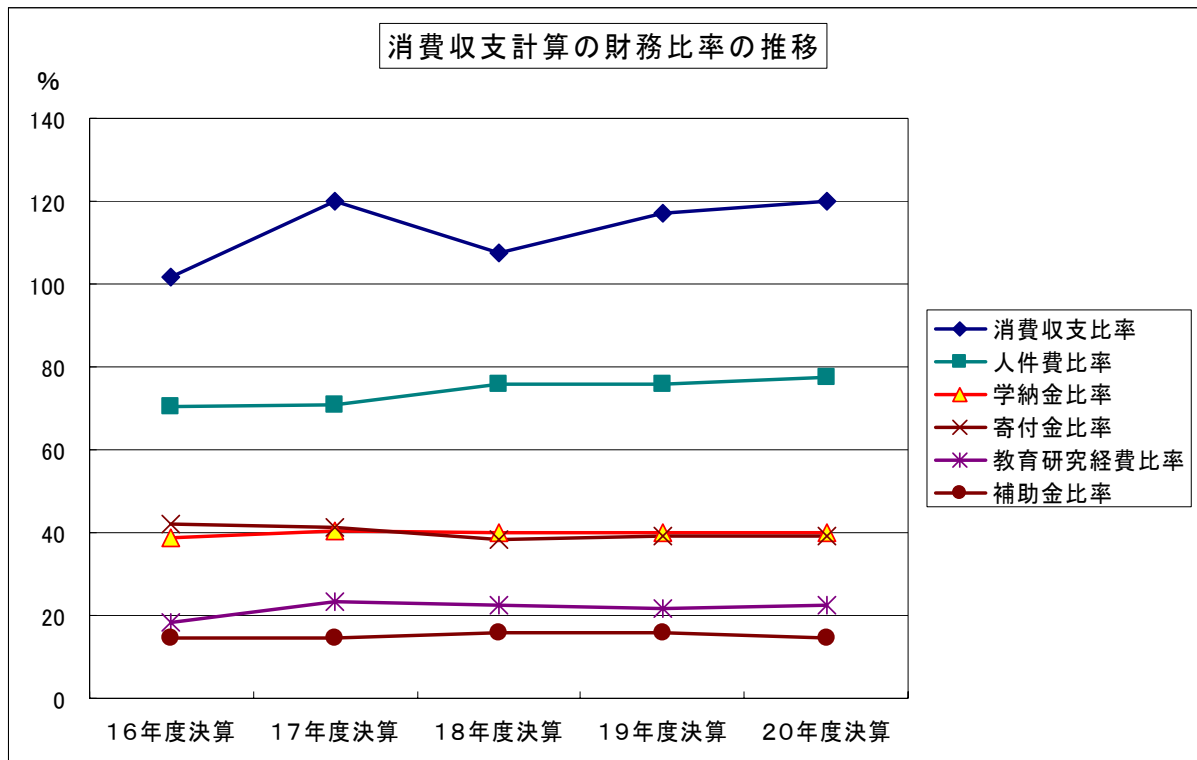
(3) 主な財務比率の推移

主な消費収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。

(単位：%)

比 率	算 式 (×100)	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	70.4	70.7	75.9	75.8	77.7
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	180.9	174.0	188.7	190.3	195.5
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	18.2	23.5	22.5	21.5	22.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.7	4.6	4.1	4.4	5.3
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	6.5	0.4	△2.9	△2.2	△6.7
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	101.7	120.2	107.6	117.2	119.9
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	38.9	40.6	40.2	39.8	39.8
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	42.2	41.4	38.5	39.0	39.3
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.6	14.5	15.8	15.8	14.5
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	88.1	89.0	88.5	89.2	88.2
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	369.1	343.5	297.8	304.2	212.9
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	13.5	12.4	12.9	12.1	13.4
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.3	67.7	98.0	98.4	98.6

※「総資金」は負債＋基本金＋消費収支差額を、「自己資金」は基本金＋消費収支差額をあらわす。



消費収支比率は100%を恒常的に上回り20年度では19.9ポイント上回りました。人件費比率は17年度までは横ばい状態でしたが、18年度以降は停年退職者による退職金の増加によりアップして、20年度では17年度以前に比べて約7ポイント上昇し、77.7%となりました。学生生徒等納付金比率（学納金比率）はほぼ横ばい状態で推移しています。寄付金比率は天理中学校・天理高等学校百周年記念事業の寄付募集により、前年度より0.3ポイント上昇しています。教育研究経費比率は17年度より補助活動事業に係る減価償却額の配分を見直したことから教育研究経費が増加し、過年度の比率より上がりました。20年度は前年度より1.1ポイント上昇しています。補助金比率は大学の経常費補助金の減少が影響し、1.3ポイント下げています。